

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと(校歌3番の文言から)

## 3学年 総合的な学習の時間 特集

## みなとまち新潟の魅力の発見と発信

3学年総合担当 上村 慎吾, 瀬野 大吾, 永井 歓

### 新潟開港 150 周年記念 附属新潟中学生が考えた「みなとまち新潟の将来展望」

～みんなで作る、みなとまち新潟宣言～



「陸と海をつなぐ川湊である新潟市では、モノや人が行き交い、豊かな文化を生み出してきました。明治元年、開港によって世界に開かれた港となり、今も世界と日本をつなぐ場所になっています。」

「現在、新潟市では次世代にむけたまちづくりが進められています。古町地区や水辺空間での賑わい、開港150周年を契機とした新たな都市デザインも計画されています。」

「つながりを生む町、新潟は、これからも人と人、地域と地域をつなぎ、新たな出会いや新たな魅力を生み出す町としてあり続けます。」

「魅力あふれるまち新潟市。私は日本全国の人たちにみなとまち新潟の魅力を知ってもらいたい、人と人とのつながりを五感で感じられるイベントを開催し、多くの人たちに楽しんでもらいたいです。」

「伝統のまち新潟市、私はみなとまちの伝統文化を次の時代につないでいきたい。新たなまち歩きイベントやお土産づくり、伝統を受け継ぎつつ、時代に合わせて変化させて、新たなみなと文化をつくりたいです。」

「つながりを生むまち、新潟市。新潟が、人、もの、文化の交流拠点となって、日本国内、海外の人や企業や都市とつながる中で、私は世界とつながる仕事にかかわってみたいです。」

### 1. 新潟開港 150 周年記念式典・「みんなで作る、みなとまち宣言」で発表



上記の宣言文は、1月23日(水)に行われた「新潟開港150周年記念式典」の「みんなで作る、みなとまち宣言」で、当校の生徒が考え、発表したものです。式典は、朱鷺メッセで行われ、秋篠宮ご夫妻、花角英世知事、中原八一市長ら関係者約600人がご臨席されました。佐渡市、聖籠町からも代表生徒が参加しました。

当校から3学年を代表し、6名(伊藤 信さん、大滝 理子さん、加村 こころさん、小林 良大さん、湊田 伊織さん、森田 彩さん)が参加し、ステージ上で立派に宣言文を発表しました。発表後、彼らの発表に対して、溢れんばかりの拍手が会場に響き渡っていました。ステージ脇で見ていた人たちも会場の温かな雰囲気、未来の世代を担う生徒たちの堂々とした姿に感動を覚えました。

宣言文の中にある「世界と日本をつなぐ港」「次世代にむけたまちづくり」「人と人とのつながりを五感で感じられるイベント」「伝統文化」「つながりを生むまち」などのキーワードは、3学年の生徒たちが総合的な学習の時間を通して、自分たちで体験的に見つけ出した言葉です。調査活動を通して、新たな伝統を生み出そうと熱い思いをもった人々、海上から感じた海の風、街歩きで感じた新潟の歴史など、生徒たちがみなとまち新潟の魅力をどのように捉え直し、地元新潟の今、そして未来に価値を見いだしたのかを紹介します。

## 2. みなとまち新潟の未来を描く

今年度、3学年の総合的な学習の時間（探究）では、新潟開港 150 周年に関連し、今年度、当校の3学年の総合的な学習の時間で、「みなとまち新潟の魅力の発見や発信」をテーマに追究活動を行ってきました。1学期、生徒とみなとまち新潟の実態を考えることから始めました。はじめ生徒は、「新潟は魅力が他県や他市と比べると魅力が少ない」「若者が集まるイベントなどが無い」など、未来の世代の立場、視点から現状を述べていました。その後、新潟市が公開しているみなとまち新潟の魅力を発信している動画や新潟開港 150 周年関連の動画を視聴し、生徒は少しずつみなとまち新潟の魅力に興味を持ち始めました。

1学期のはじめに、ミズベリングやすらぎ堤研究会・代表・鈴木寿行様のワークショップを行いました。鈴木様は「萬代橋誕生祭」の実行委員長をはじめ、多くの市活性化の取組に従事されている方です。生徒たちは鈴木様から水辺を中心としたまちづくりの想い、新潟市の魅力を別の視点から捉え直すこと、様々な人とつながることの大切さなどを学びました。そこから、タブレット端末を活用し、生徒が思い描く「みなとまち新潟の未来」を作成していきました。さらに、新潟市地域・魅力創造部 2019 年開港 150 周年推進課より福嶋様、古田様をお招きし、新潟市開港 150 周年記念事業に関連した授業を行いました。生徒たちが考えた「みなとまち新潟の未来」のプレゼンテーション案を行政の立場からご助言いただきました。



## 3. みなとまち新潟の魅力の探究

2学期では、生徒がみなとまち新潟の魅力を体験的に見つけ出せるように、「自分たちが伝えたいみなとまち新潟の魅力は何か」をテーマにした調査活動を行いました。にいがた総踊り副実行委員長・岩上 寛 様によるワークショップ、「新潟みなとクラブ」様、「新潟港湾・空港整事務所」様、「新日本海フェリー」様、「新潟市文化財旧小澤家住宅」様のご協力の下で海上クルージング、下町新潟散策、フェリー乗車体験、歴史的建物見学、鈴木 寿行 様からサンセットカフェの紹介などをしていただきました。生徒は調査活動や体験活動を通して、自分たちが伝えたいみなとまちの魅力と事業に携わる方々の思いを関連付けて、みなとまち新潟を伝えるために必要な要素を見いだしていきました。



## 4. 「みんなでつくる、みなとまち宣言」づくり、そして生徒たちの成長



最後のまとめとして、3学期に、これまでの活動を踏まえ、「みんなでつくる、みなとまち宣言」を学級ごとに作成しました。「新潟市地域・魅力創造部 2019 年開港 150 周年推進課」様、「新潟日报社」様、「新潟博報堂」様のご協力の下、生徒たちの思いを込めた宣言文を作成しました。

今年度、この活動を通して、生徒たちがみなとまち新潟に対する見方が変わったこと、そして、新潟の未来を自分事として考えるようになっていく姿を見て、私たちはたくさんを学ばせてもらいました。多くの生徒たちが「つながり」という言葉を大切にしていました。生徒一人一人の五感で感じた「つながり」という言葉が、生徒たちの将来の道しるべになると信じています。